

今昔物語

その51

鵜殿の貯木場

鵜殿地区



昭和39年

提供：梶屋喜一氏



現在

— 昔の風景写真を募集します —

広報さほうでは、みなさんのお宅に眠っている昔なつかしい風景写真を募集します。本人またはご家族が撮影された、著作権を完全に保有されているものに限って、受け付けさせていただきます。このコーナーでご紹介させていただこうと思っています。詳しくは、役場企画調整課（☎33-0334）までお問い合わせください。

今回は昭和39年に撮影された鵜殿の貯木場の写真を紹介します。この写真は平島交差点付近の高台から新宮方面に向けて撮影したもので、木々の合間から当時の貯木場周辺の様子がうかがえます。
写真を提供いただいた梶屋喜一氏にお話を伺うと、当時この辺りは入り江になっており、水面貯木場として多くの木材が浮かべられ、周辺には製材工場が並んでいたほか、練炭工場や、御船祭りでも登場する諸戸船の置場もありました。また、当時子どもたちはこの貯木場で魚を取ったり、水遊びをしたり、働く場、生活の場、遊びの場として親しまれていたそうです。
昭和45年に鵜殿港の整備工事が開始されたことに伴い、この貯木場も埋め立てられ、現在の姿となりました。

ひょうたん屋

大音量の爽快感？

今月のまちのわだいにもある「屋台deランチ」のお手伝いをする事になり、ポン菓子を作りました。「ポン」菓子と言うものの、実際は「ドッカーン」という爆発音を上げて作るポン菓子。レバーを叩く瞬間はドキドキしつつも、爆発の衝撃はちよつと癖になりそうな爽快感を感じました。
今回は普通の砂糖に加え黒砂糖のものを作りましたが、多くの方が来られたこともあり、いずれも完売しました。味付けのアレンジやほかの食材でもできるみたいなので、機会があればまたチャレンジしてみたいと思います。
（びびって1回目はだいたい空振り 愛野裕基）



大音量を上げて作るポン菓子

生活に欠かせないもの

先日テレビで「生活に欠かせないもの」について取り上げられていて、私が思いついたのは車です。学生のころは一駅歩くのも苦じゃなかったのに、今では駐車場まで歩くのもいやなぐらい依存しています。特にこれから暑くなる季節にはなくてはなりません。
しかし、運転が苦手な方向音痴な私は、ナビを設定しても変な場所にたどり着いたり、同じ道をぐるぐる回ったりと、運転は向いていないなとつくづく感じ、率先して助手席に乗りがちです。
また、車のナビの反応が鈍く、曲がるころを間違っているので、「もっと早く言ってよ」と機械を相手にムキになり、怒ってしまつこともありますが、なくてはならない存在なので、早く仲直りしようと思つてます（笑）。
（車のナビとケンカ中 大森菜央）



広報担当 大森菜央



広報担当 愛野裕基